

『スフィンクス』をめぐって

—ワイルドのセクシュアリティを中心として—

新谷好
(追手門学院大学助教授)

「オスカーはスフィンクスに強い感情を抱いていた。彼は、オックスフォード大学以来ずっと『スフィンクス』という詩に取り組んでいた」とフィリップ・ジュリアンは述べている。また、短編小説「レディ・アルロイ」が『アーサー・サヴィル卿の犯罪とその他の物語』に収められた時、「秘密のないスフィンクス」と改題されている。それ故、ワイルドが「スフィンクス」に如何にこだわったかが窺えて興味深い。この詩に登場するスフィンクスは、「半ば女性半ば動物」で、「精妙且つ秘かな」「微笑」を浮かべ、「淫らな官能的生活の夢を喚起し」、「私の中にあらゆる獣性を目覚めさせ、私を私でない人間にさせてしまう」怪物である。このように、「私の信条を不毛な見せかけ」に変えてしまう「忌まわしい不可思議なもの」である怪物に対し、語り手は、「私を私の十字架のもとに置いてくれるよう」嘆願する。単純に考えれば、「十字架」に象徴されるキリスト教的精神主義と、スフィンクスが喚起する異教的快楽主義が相争う両極を形成し、その雰囲気は、疑似宗教ドラマの『サロメ』や『聖娼婦』に酷似する。

さて、リチャード・デラモータは、レオナルド・ダ・ヴィンチの『モナ・リザ』が「新しいスフィンクス」（つまり、男性でも女性でもある神話上の生き物）であるというゴージェの叙述を紹介している。『ドリアン・グレイの肖像』にも、「熱帯の蓮の葉で被われたナイル川、そこにはスフィンクスがいて……ゴージェがコントラルト声音に響くあの奇妙な彫像、ルーブル博物館の斑岩造りの部屋に横たわるあの『魅惑的な怪物』……」という一節がある。イゾベル・マリーによれば、この「魅惑的な怪物」は「疑わしき性別」である。パトリシア・ベイラントも、『スフィンクス』の「語り手」が女性よりも男性を性的に優先していることを重要視し、「ワイルドのスフィンクスは、神話上動物に姿を変えたもののみならず、男女両性の恋人を食い尽くすセクシュアリティを持っている」と述べている。ワイルドは『W・H氏の肖像画』の中で、「我が偉大な劇作家たちによって用いられた、演劇の好奇心をそそるあらゆるモチーフの中で、両性の曖昧さ程に微妙で魅惑的なものはない」と述べている。それ故、ワイルドが「微妙で魅惑的な」「両性の曖昧さ」に相当関心があったことは確実で、半ば女性半ば動物」と描写されるスフィンクスは、アンドロギュノスの生き物と解釈するのが妥当ではなかろうか。ここで想起されるのは、

「秘密のないスフィンクス」に登場するレディ・アルロイである。彼女は、「微かな微笑」を浮かべる「ペールを被った」「喪服のジョコンダ〔モナ・リザ〕」である。

要するに、ワイルドの作品では登場人物のセクシュアリティは疑わしく、性転換が可能なアンドロギュノスの人物が登場し、男性同志の同性愛のモチーフが潜んでいると考えられる。サロメもウォルター・ペーターのコンテキストでは「男性服装倒錯者の像」である。はからずも、ビアズリーの挿絵は、『サロメ』のサブテキストを表出する。というのは、ワイルドを風刺したビアズリーの挿絵「月の中の女」の表題は、元々「月の中の男」だったからである。このような推論を裏付けるかのように、ワイルドの詩「我が聖母」の制作過程では「美しいほっそりとした少年」が「百合のような少女」に性転換している。それ故、レディ・アルロイやサロメ等は、服装倒錯者であるW・H氏の可能性がある。というのは、ワイルドの友人の三人までが服装倒錯者であり、『ドリアン・グレイの肖像』の中でも、ドリアンが「フランス提督アンヌ・ド・ジョワイユーズ」に変装しているからである。だが、ここで注目すべきは、ドリアンが初めてシビルに接吻したのは、彼女が『お気に召すまま』のロザリンド役を演じた時であるという事実である。それ故、ドリアンのロザリンドに対する感情は、「微妙」で「魅惑的な両性の曖昧さ」以外の何物でもなく、ワイルドの性的嗜好がロザリンドを演じる「女優」にそのまま投影されていると考えられる。ニーナ・アウエルバッハによれば、シェイクスピア劇で異性の服を大胆に身に纏うロザリンドは、当時の英国の同性愛者にとっては禁断の幻想のシンボルで、「アメリカの女優のエイダ・リーハンがこの世紀の最も人気のあるロザリンド役だった」ようである。このリーハンとワイルドの交友関係がいつ頃始まったかは不明であるが、ワイルドは1891年の秋に『レディ・ウィンダムミアの扇』の草稿を劇場支配人に送付し、「リーハンにも見せて頂きたいのです。……彼女がアーリン夫人の役を演じるのを拝見したく思っているのです」と書き送っている。結局、この願いは実現しなかったが、それから六年後にもワイルドは、「特にあの光輝く魅惑的な天才のエイダ・リーハンのためにいつか劇を書きたく思っています」と述べている。